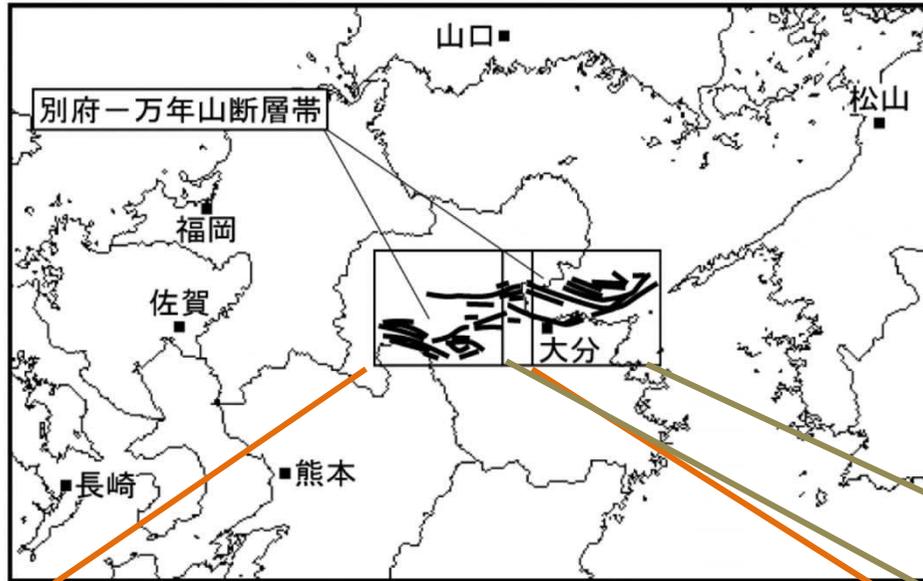


# 大分県有識者会議について

# 従来の評価「別府－万年山断層帯」

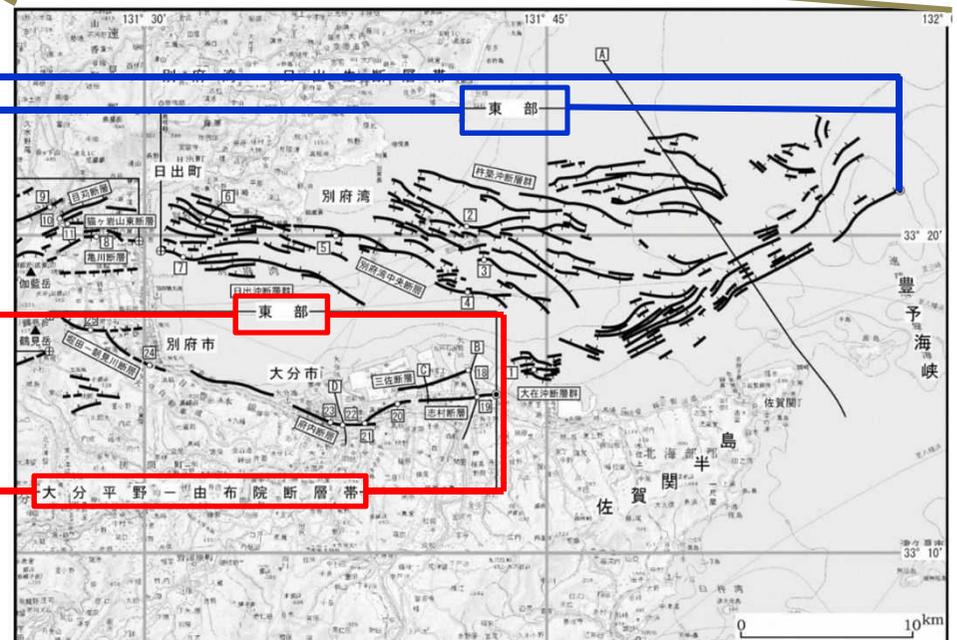
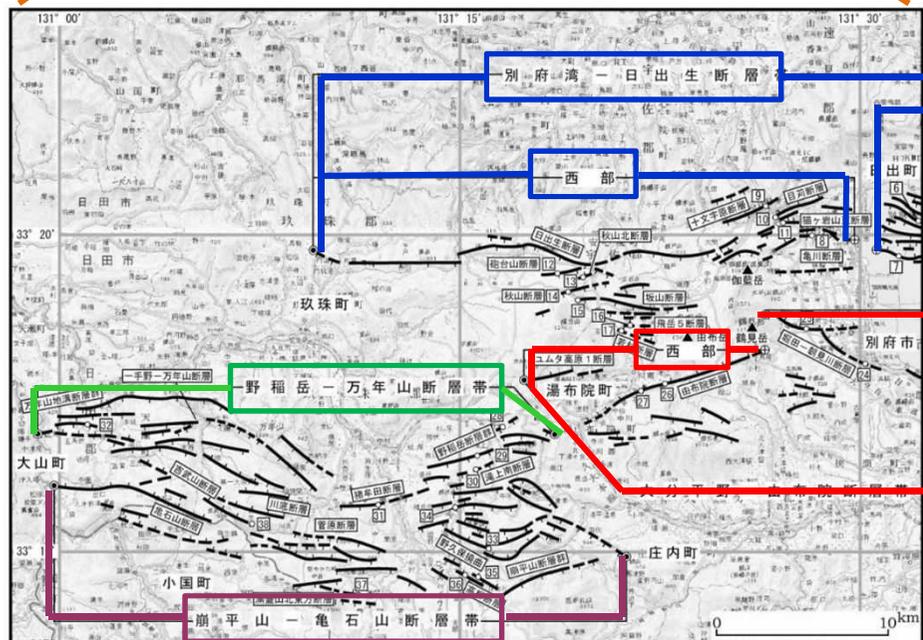


## 「別府－万年山断層帯」

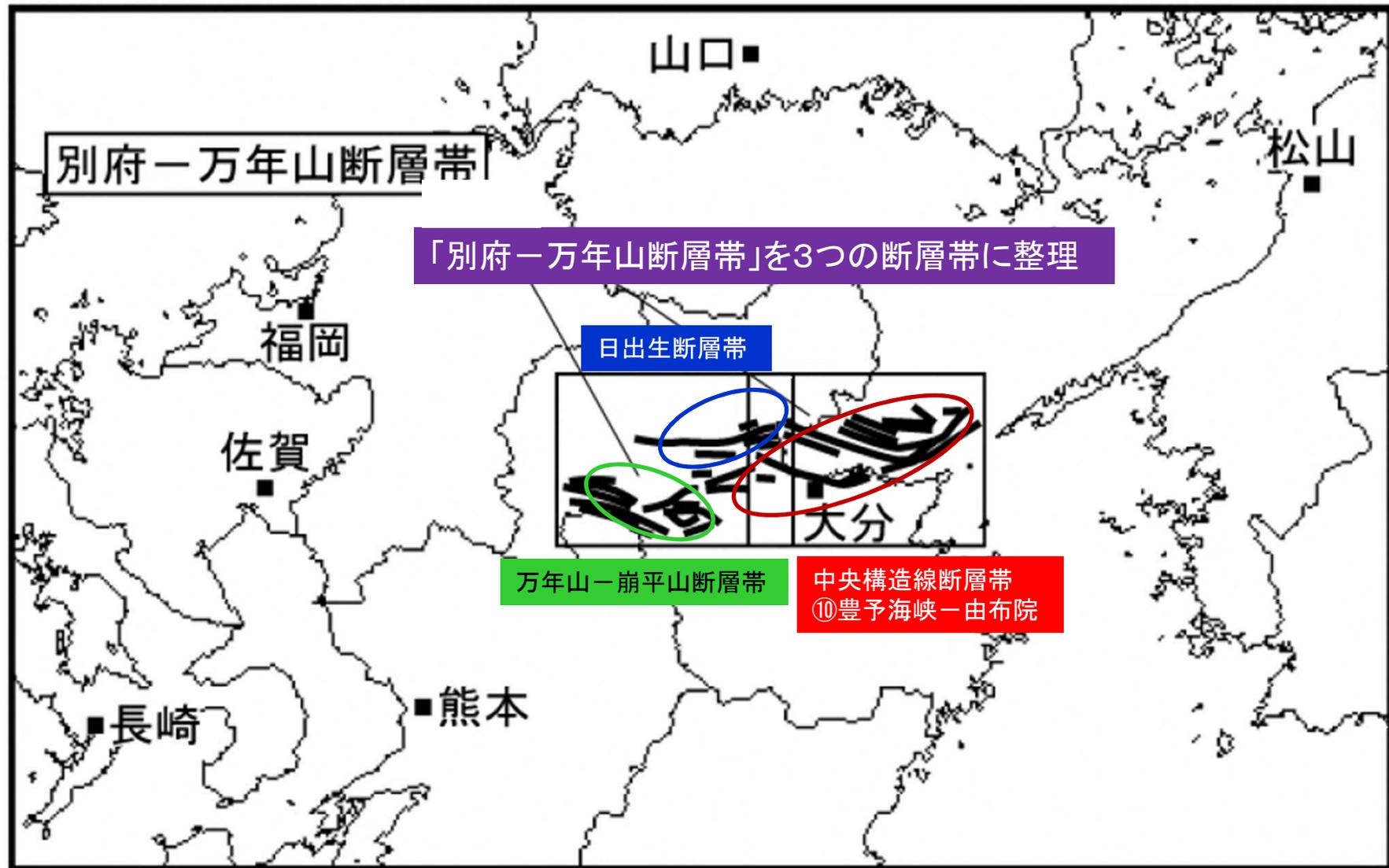
主要活断層帯の一つとして評価されていた

## その構成断層帯

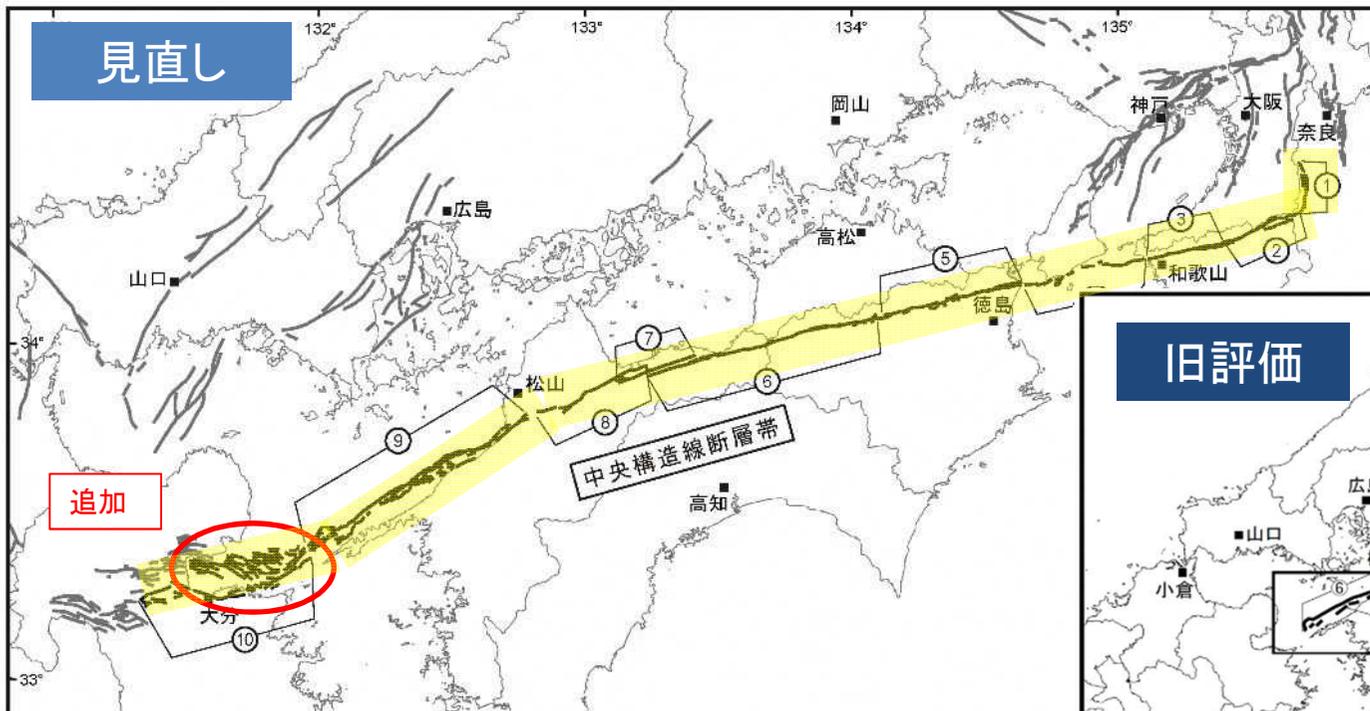
- ・別府湾－日出生断層帯／東部・西部
- ・大分平野－由布院断層帯／東部・西部
- ・野稻岳－万年山断層帯
- ・崩平山－亀石山断層帯



# 別府－万年山断層帯の長期評価の見直し



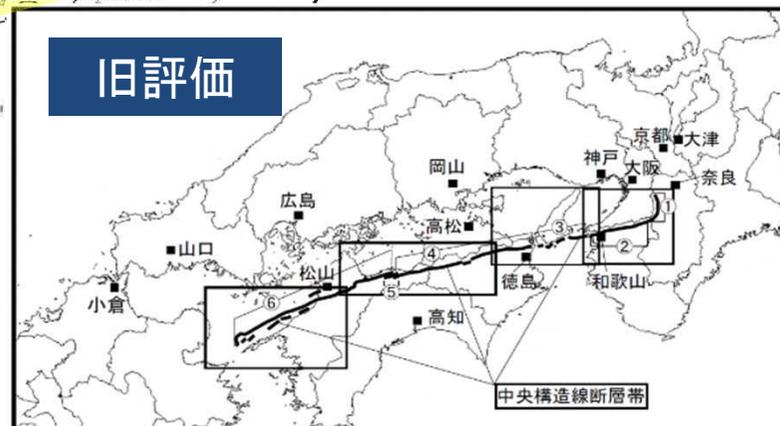
# 中央構造線断層帯の評価見直しのポイント



## ●【区間の追加】

- ⑩豊予海峡—由布院区間
- ・西端は由布院断層まで延長

全長約360km→約444km



区間	規模(M)	発生確率のランク	備考
①金剛山地東縁	6.8程度	Z	平均活動間隔:6-7.6千年 地震後経過率:0.2-0.3
②五条谷	7.3程度	X	最新活動時期:約2千2百年前以後、7世紀以前
③根来	7.2程度	A	平均活動間隔:2.5-2.9千年 地震後経過率:0.4-0.6
④紀淡海峡—鳴門海峡	7.5程度	A*	平均活動間隔:4-6千年 地震後経過率:0.4-0.8
⑤讃岐山脈南縁東部	7.7程度	A	平均活動間隔:0.9-1.2千年 地震後経過率:0.6以下
⑥讃岐山脈南縁西部	8.0程度もしくはそれ以上	A	平均活動間隔:1-1.5千年 地震後経過率:0.2-0.5
⑦石鎚山脈北縁	7.3程度	Z	平均活動間隔:1.5-1.8千年 地震後経過率:0.4以下
⑧石鎚山脈北縁西部	7.5程度	S*	平均活動間隔:0.7-1.3千年 地震後経過率:0.2-0.9
⑨伊予灘	8.0程度もしくはそれ以上	Z	平均活動間隔:2.9-3.3千年 地震後経過率:0.04-0.1
⑩豊予海峡—由布院	7.8程度	Z	平均活動間隔:1.6-1.7千年 地震後経過率:0.2-0.3

発生確率 (高い順に) S→A→Z X (発生確率不明)

# 大分県有識者会議について

1. 目的 「中央構造線断層帯の長期評価」の見直し(29年12月)にともない、県への影響と対策について有識者から意見を求めることを目的。

【具体的な検討内容】隣接区間との連動による別府湾地震の被害想定とその対策(「県地震津波被害想定調査」(25年3月)の見直し)

## 2. 委員 (会長) 竹村 京都大学名誉教授

役職	氏名	所属・職名	研究分野
会長	タケムラ ケイジ 竹村 恵二	京都大学名誉教授	地球物理学 地質学
副会長	コバヤシ ユウジ 小林 祐司	大分大学減災・復興デザイン教育研究センター 次長 理工学部 准教授	都市計画 都市防災
委員	シミズ ヒロシ 清水 洋	九州大学大学院理学研究院附属地震火山観測研究センター長	地震学 火山学
	ヨシミ マサユキ 吉見 雅行	国立研究開発法人産業技術総合研究所 活断層・火山研究部門 地震災害予測研究グループ主任研究員	自然災害科学 地震動
	キタザキ ヤスフミ 北崎 康文	大分地方気象台長	気象
	サクライ ナリ アキ 櫻井 成昭	大分県立先哲史料館 主幹研究員	歴史古文書

## 3. スケジュール

2月22日 県防災対策推進委員会で設置を承認

4月19日 第1回大分県有識者会議開催

5月28日 第2回大分県有識者会議開催

※第2回有識者会議にて、被害想定調査見直しの基本方針を承認

※会議の議論を踏まえて、「新地震・津波対策アクションプラン(仮称)」へ反映を検討